

超音波画像診断装置

Xario 100

高機能・高画質で診断能力が更に向上

東芝製高級機種 of 先進技術を投入された

2014年発売の最新の超音波装置です。

腹部・頸動脈・心臓の検査において、高画質化技術を発揮します。

Xario100は《高機能》《高画質》で、診断能力の向上をサポートし、

患者さんへ提供する検査の質を高めます。



最適な検査空間を実現するコンパクトボディ

高性能を搭載しながら軽量・コンパクトボディで、

ゆとりのある検査スペースを提供し、

患者さんは圧迫感が無く、リラックスして検査を受けて頂けます。

見やすい大型モニタを採用

19インチの高精細モニタを採用しております。

検査の内容によって、

患者さんが見やすいように、ポジションを調整します。



医療用具認証番号:225ACBZX00065000 超音波診断装置TUS-X100 Xario100

3つの最先端画像処理技術で 診断能力が更に向上します

■ 差音を利用した高分解能なDifferential THI

Tissue Harmonic Imagingがさらに進化。

2つの周波数を合成して送信し、差音と高調波をPulse Subtraction法により描出します。

広帯域プローブの帯域幅を最大限利用した新しいTHI画像が、卓越した分解能とペネトレーションを実現しました。組織内部や境界エコーの描出能を向上させ、腫瘍や嚢胞などの病変と正常組織の識別が容易になります。



■ ApliPure™ によりコントラスト分解能がさらに向上

空間コンパウンドと周波数コンパウンドの2つのコンパウンド技術を組み合わせた画像表示。

大幅にノイズをカットして実質像の均一性を増加して、細部までコントラスト分解能の高いエコー像を描出することができます。

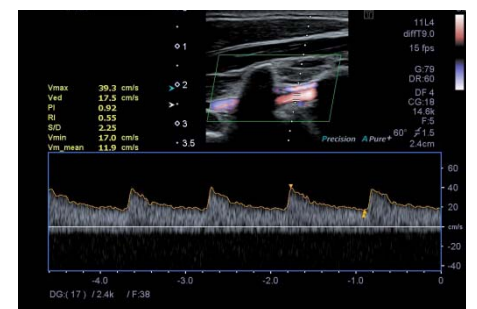


■ Advanced Dynamic Flow™ による微細な血流表示

東芝の代名詞「Advanced Dynamic Flow™」。

東芝独自の広帯域のカラードプラ送受信技術により、はみ出しが極めて少ないリアルな血流表示が可能です。

腫瘍を栄養する血管や腎機能の評価、プラークなどの動脈硬化性病変の描出にも役立ちます。



各検査において 診断能力が更に向上します

■腹部エコー検査

肝臓・胆のう・膵臓・脾臓・腎臓の検査を行います。

それぞれの臓器の形態や腫瘍などがないかを検査 します。

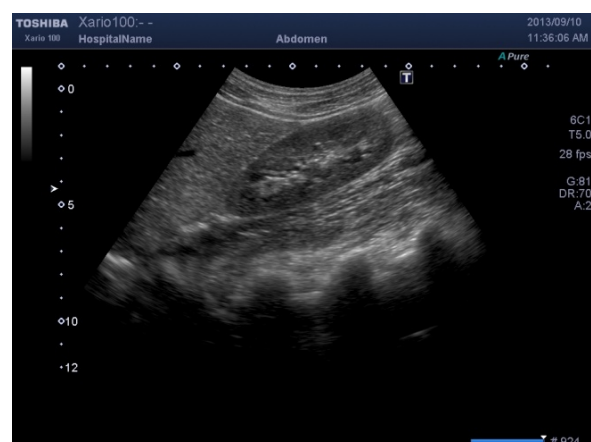
肝臓では肝臓がんや肝硬変、胆のうではポリープや胆石、膵臓では膵炎や膵臓がん、脾臓では脾腫の有無、腎臓では腎のう胞や腎機能などが分かります。

【図1】は肝臓の正常画像、【図2】は腎臓の正常画像です。白・黒・グレーの組み合わせをみて病変と正常組織の識別をつけていきます。

超音波(エコー)検査は放射線を使用しておらず、 侵襲がないので繰り返し定期的に検査することが可能です。



【図1】



【図2】

各検査において 診断能力が更に向上します

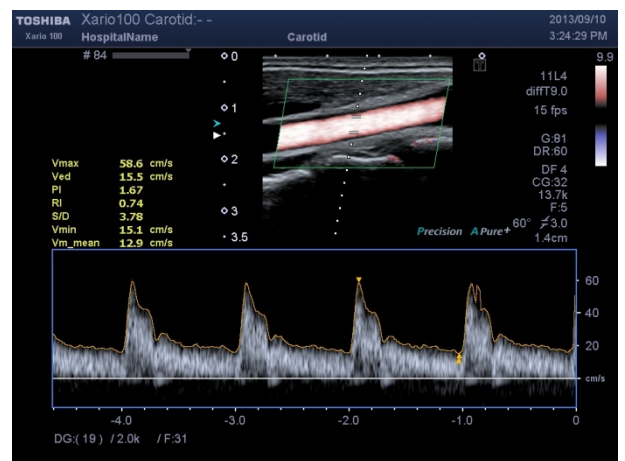
■ 頸動脈エコー検査

頸動脈血管の血管壁の厚み(IMT:内中膜複合体)を計測することで、高血圧や糖尿病などの生活習慣病に起因する動脈閉塞性疾患の程度がどの程度進行しているかを調べる検査です。

また血管内の血流速度を計測することで見え難い部分に病変があるかを推測できます。

早期に動脈硬化性病変を発見することで、早期の予防につなげる事が出来ます。

【図3】は頸動脈の血流速度を測っている図です。

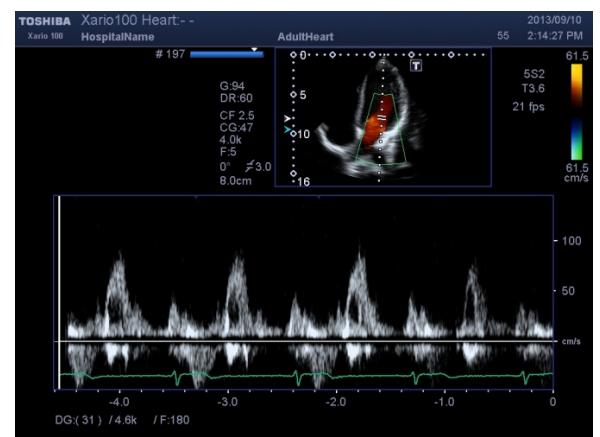


【図3】

■ 心臓エコー検査

心臓の動き(ポンプ機能)や血液の流れる方向に異常がないかどうかを検査します。心筋梗塞の有無や、僧帽弁逆流・大動脈弁狭窄の有無が分かります。血液の流れは赤と青の色をつけたモードで検査します。

【図4】は心臓の左室への血液の流れの方向と速さを検査している図です。



【図4】